

# 海外研修レポート

総務課 財政係長 吉澤 裕治

「平成30年度市町村職員外国派遣研修」が9月9日（日）から19日（水）までの11日間行われ、福島町からは総務課の吉澤財政係長が参加しました。

本研修では、ヨーロッパの地域振興・環境対策・社会福祉を学ぶことをテーマに実施されました。11月号と12月号に分けて研修内容を報告いたします。

6月のある日、ヨーロッパ（オランダ・デンマーク・スウェーデン）への研修参加が決まり、期待と不安を抱えながら、研修準備を進めました。

8月には「事前研修」が行われ、道内各地から21人が集結。志願・指名など動機は様々ですが、皆さん優秀で頼りになる方々でしたので安心しましたが、訪問先では「移民・難民問題」による治安の不安定さを物語る説明などがあつたため、少し不安な気持ちとなりました。

9月、仕事の整理と研修準備を直前まで行い、9日に福島を出発、翌10日正午頃に日本からヘルシンキ空港を経由し、約13時間におよぶ長い飛行で、現地時間の夕方6時頃（時差はマイナス7時間）アムステルダムに無事到着。海外研修が本格的にスタートしました。

【オランダ】研修1カ所目、私の班が担当する北部オランダ開発公社で「地域資源・特性を生かした地域振興」を研修。オランダ北部では、エネルギーや海洋分野などで様々な研究が進められており、地区の地域性を

を考慮したアグリフード（農業）や水関連、環境エネルギーを主要とした産業が栄えているのも特徴的です。今回訪問した北ホラント州アルクマール市周辺は、オランダ最大の農業地域であり、牧歌的な景色なども多く、北海道と似た雰囲気を感じました。

オランダは、世界有数の天然ガス田を持つているにもかかわらず、再生可能エネルギー（太陽光・風力など）への移行を進め、専門的な知識を備えた組織を設立し、世界レベルのものになるように、今後を見据えて取り組んでいます。

北海道においても研究や新しい取り組みを進めていくことも重要ですが、今あ



▲北部オランダ開発公社での研修

る「地域資源」にスポットを当てて最大限に活用していくことが大切だと感じました。

視察後は、アムステルダム市内にある国立美術館を見学。レンブラントの「夜警」や、ゴッホの「自画像」など、数多くの名作が展示されていました。



▲アムステルダム国立美術館

研修2カ所目、アムステルダム市で「地域振興・環境対策」を研修。アムステルダム市は、限りある資源の再利用を積極的に行う

「環境配慮型都市」を目指し、市民・企業・行政が一体となりエネルギー消費量の削減に向け、様々なプロジェクトを実施していると伺いました。環境問題に強い思いを持って取り組んでいる姿勢が素晴らしいと感じました。

【デンマーク】研修3カ所目、エーロスキュービン（エーロ島）で「住民参加型の再生可能エネルギーの導入」を研修。世界でも稀に見るエネルギー先進国として知られているデンマーク。エーロ島は、島内電力の約65%が風力発電、さらに太陽エネルギーの活用も盛んで、島全体には2万8千㎡ものソーラーパネルが設置されています。

島民が知恵を出し、協力し合って、再生可能エネルギーのプロジェクトを立案。近い将来、島内100%の自然エネルギーによる電力供給が見込まれているという、この島全体の取り組みは、世界中から注目を集めているとのことでした。



▲新しい太陽光パネルについての説明

（12月号へ続く）